

さいたま食育推進ネットワーク会員紹介

『特定非営利活動法人 オリザネット』（斉藤光明代表、埼玉県越谷市）

人と生き物が共生できる社会づくりに貢献しよう！

「特定非営利活動法人 オリザネット(以下「オリザネット」という。)」は、



斉藤代表他4名の理事と10数名の会員が「農と自然を大切にして、人と生き物が共生でき、将来の世代も自然の恵みを楽しむことができる、持続可能な社会づくりに貢献しよう」という活動理念を掲げ、多くの生き物が息づく田んぼと畑を作りながら、理念の実現に向けて、さまざまな活動をしているNPO法人です。

田んぼと畑と生き物の学校

オリザネットは、農地の様々な生き物について調査、研究を行い、その結果をもとにした農法の研究及び普及活動等を行うため、「生き物緑地の計画、建設、維持、管理に関する事業」や「絶滅の恐れのある野生生物の保全に関する事業」「農業自然体験に関する事業」など、環境に関する事項を中心に10項目の事業を掲げ、平成15年に活動を開始しました。また、同時期に生き物を増やす実験場として越谷市内に田んぼを借りて、「田んぼと生き物の学校」も開始しました。

田んぼと生き物の学校の取組を開始した数年間は、新聞で参加者の募集を行っていましたが、参加者は口コミにより増えつづけ、新聞募集をやめた後も、越谷市の市民を中心に40組（個人、家族）が参加するまでとなりました。

平成23年度の「田んぼと畑と生き物の学校」（22年度から畑も入りました）では、5月に活動を開始、夏野菜の植え付けから始まり、代かき、田植え、草取りを行い、夏には枝豆、トマトなどを収穫し、秋には、古代米の稲刈り、天日干し後には収穫祭、冬には、鏡開き、七草粥そして3月のジャガイモ植えを最後に年間の行事が終了します。

年間を通した農作業とともに、田んぼの水生生物や畑の昆虫類、稲の花の観察のほか、農作物と共に生きる季節の生き物をその季節ごとに観察するなど、農と生物多様性が体験できる内容となっており、年間の参加費用は1組あたり1万円です。

また、年20回程度計画された活動への参加は、各人が自分の都合の良い日に、都合の良い時間帯だけ参加できる、参加しやすい仕組みとなってい



ます。

活動の中心にあるもの

齊藤代表から、「オリザネットの農業体験活動の中心には常に活動理念があり、農業と生き物と人のつながりについて体験を通して理解してもらおうと心がけています。体験を何気なく行っていた小さな子どもたちが、小学生になり、授業で食物連鎖など生き物のことを学ぶ頃には、田んぼと畑と生き物の学校の体験で学んだことと、授業で学んだこと、つまり、農業と生き物と人とのつながりがだんだんわかってくるようになり、その中で例えば、益虫の存在は減農薬栽培につながることを理解し、『虫の存在は当然』と思えるようになってほしい、と考えています。体験する人が増えることで、次の世代により多くの自然の恵みを引き継ぐことが出来ますし、何より子どもたちが大人になった時に、自らの意思で口にする食べ物を選択出来るようになると思うからです。今後も、改善し、理念に基づいて活動を続けていきます。」と力強く抱負を語っていただきました。

取材を終えて

取材に伺った日は、「田んぼと畑と生き物の学校」が開催されていて、時々、参加者の皆さんの楽しい笑い声が聞かれるなど、和やかな雰囲気の中で活動されていました。畑の観察では、例えば春キャベツの場合、春キャベツの間にニンニクを植え、虫除け（コンパニオンプランツ）として



(*上の写真の野菜はタマネギの芽です)

この野菜(*右上の写真の野菜)は何でしょう。」といった質問があり、畑の中から出てきたダンゴムシ、生き物のために刈り取らずに残していた枯れ草に生み付けられた益虫のカマキリの卵、畑の一角にある、これも益虫のカエルが冬眠するためのエリアを観察するなど多くの気づきを入れた盛りだくさんの体験となっていました。



その後、みんなで栽培した黒米で12月にお餅つきをして作った鏡餅を使った鏡開きのイベントが始まりました。お餅を焼くための七輪の火をおこす人、お餅を割って一口大に小さくする人と分担して作業を進め、お餅を七輪で焼いてお汁粉を作り、皆さんで美味しそうに食べていました。お汁粉を食べた後、七輪の火を囲んで歓談を続ける大人の周りで、一輪車を押して遊ぶ小さな子どもを大人がみんなで見守っている様子を見ながら、ここに参加している子どもたちは、体験や遊びの中で多くのことを学び、そして力強く成長していくのだらうなと感じた一日でした。

(たしろ)